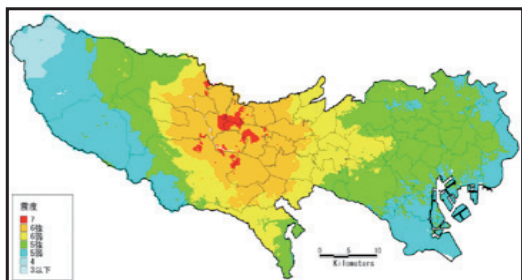


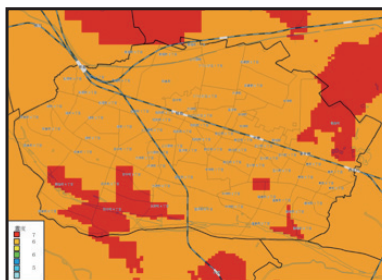
被害想定・行動ポイント

立川断層帯地震での昭島市の被害想定

立川断層帯については、平均活動間隔が10000年～15000年程度であり、今後30年間の地震の発生確率は0.5～2%と低いですが、発生した場合に断層帯を中心に大きな被害を及ぼすおそれがあります。昭島市においては、大半が震度6強となり、一部地域で震度7が想定されており、最も大きな被害が想定される地震となっています。



平成24年4月「首都直下地震等による東京の被害想定」報告書より



立川断層帯地震M7.4 震度分布図

地震 その時10のポイント

突然、大きな地震に襲われたとき、私たちは適切な行動がとれるでしょうか？

東京消防庁では、近年の地震による被害状況や教訓から、地震時・地震直後・地震後の行動について分かりやすく解説した「地震 その時10のポイント」を推進しています。大きな地震が起きたとき、適切な行動がとれるように確認しておきましょう。

地震時の行動

地震だ！まず身の安全



- 揺れを感じたり、緊急地震速報を受けたときは、身の安全を最優先に行動する。
- 丈夫なテーブルの下や、物が「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」空間に身を寄せ、揺れがおさまるまで様子を見る。

高層階(概ね10階以上)での注意点

- 高層階では、揺れが数分間続くことがある。
- 大きくゆっくりとした揺れにより、家具類が転倒・落下する危険に加え、大きく移動する危険がある。

地震直後の行動

落ち着いて火の元確認 初期消火

- 火を使っているときは、揺れがおさまってから、あわてずに火の始末をする。
- 出火したときは、落ち着いて消火する。



あわてた行動 けがのもと

- 屋内で転倒・落下した家具類やガラスの破片などに注意する。
- 瓦、窓ガラス、看板などが落ちてくるので、外に飛び出さない。



窓や戸を開け出口を確保

- 揺れがおさまったときに、避難ができるように出口を確保する。



門や塀に近寄らない

- 屋外で揺れを感じたら、ブロック塀などには近寄らない。



地震後の行動

火災や津波 確かな避難

- 地域で大規模な火災の危険が迫り、身の危険を感じたら、一時避難場所や広域避難場所に避難する。
- 沿岸部では、大きな揺れを感じたり、津波警報が出たら、高台などの安全な場所に素早く避難する。



正しい情報 確かな行動

- ラジオやテレビ、消防署、行政などから正しい情報を得る。



確かめ合おう わが家の安全 隣の安否

- わが家の安全を確認後、近隣の安否を確認する。



協力し合って救出・救護

- 倒壊家屋や転倒家具などの下敷きになった人を近隣で協力し、救出・救護する。



避難の前に安全確認 電気・ガス

- 避難が必要なときには、ブレーカーを切り、ガスの元栓を締めて避難する。

